

「今週の1枚」



林床に繁茂するスズタケ (*Sasamorpha borealis*)

名前にはタケとありますが分類上はササの1種です。他のササと違って、地面より真っ直ぐに立ち上がり、直径は通常10mm以下と細いのですが、高さは写真の様に3mを超えることもあります。かなり暗い林床にも生えて、特にブナ林の林床にあって太平洋側に特有なブナースズタケ群集を形成します。分布域は主に太平洋側に限定され、北海道から四国、九州までの広い範囲で見ることができ、日本海側のブナ林に多いチシマザサとは好対照です。

ブナに限らず樹木が更新するためには稚樹が十分な光を浴びて成長することが必要ですが、ササの類はしばしばこの更新を阻害することがあります。上木のある林分の林床にあるササは高さも小さく、稈（かん、ササの幹をこう呼びます）の本数密度も低いのです。ところが、上木を伐採したりして除くと林内が明るくなり、稚樹が成長するより早くササが猛烈な勢いで成長し、写真の様に密生することが多く、その結果更新の阻害要因となります。スズタケの密生したところはまるで壁のようになり、人間が体の中に入れるのすら不可能になるほどです。従って、更新を成功させるためにササを刈ったり枯らす工夫が必要となります。

この写真は高知県東部の野根山街道装束峠付近で撮影したものです。野根山街道は奈半利町から東洋町へ抜ける長さ40kmの尾根づたいの山道です。千年以上昔から使われている道で、江戸時代には参勤交代の道としても利用されてきました。現在も当時の様子をそのままに伝えており、街道を歩いていると、向かいからお侍が歩いて来るような気がします。

（文：奥田史郎・写真：酒井敦）

（No. 111 2005. 4. 5 掲載）